

共生

奈良県生協連

2023年1月

NO.127



ピースアクション in なら 2022



教育大学生協“自転車点検活動”



憲法学習会



大阪消団連50周年感謝のつどい

もくじ

新年のご挨拶 森宏之奈良県生協連会長…	1	おじゃましました～ならコープの巻～……	6
新年のご挨拶 荒井正吾奈良県知事……	2	おじゃましました～奈良教育大学生協の巻～…	7
生協・行政協議会……	3	関西消費者団体連絡懇談会との定期懇談会…	8
ピースアクションinなら2022……	4	大阪消団連50周年感謝のつどい……	9
憲法学習会……	5	ならコープシステム障害……	10

新年のご挨拶

**2023年、たすけあい協同の心を大切にして
「誰一人も取り残さない」安心してらせる
地域づくりをすすめる年にしましょう**

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之



奈良県生協連の会員及び組合員のみなさん、新年おめでとうございます。昨年は予期せぬ出来事が相次いで起こり、数々の難局を残り超えるのに苦労する一年となりました。本当にお疲れ様でした。その中でも奈良県生協連の様々な活動に対して大きなご協力とご支援もいただき誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

世界各地で気候変動に関連する大災害が起こり、また新型コロナウイルス感染拡大も全人類を脅かす新たな局面に移りました。加えて、核戦争への危機をはらむウクライナ戦争まで発展する異常な危機的状況になっています。地球環境を無視した自分勝手な愚かな行動の結果として、世界は食料と資源エネルギーの危機を深刻化させ破壊と争奪と混乱の時代に入ったかのような様相を呈しています。今こそ、貧困と飢餓から脱して、世界中のすべての人々が平和と豊かさを享受できるような世の中になるよう行動することが求められる時代になっています。

さて、奈良県生協連は9つの会員生協が県下40万人の組合員を組織するにいたりました。30年ほどの取り組みの中で培ってきた力はまだまだ小さいものではありませんが、食と暮らし、平和、環境、福祉、防災の5つの分野で地域社会の一員として責任ある行動を積み重ねてきました。最近では子どもや高齢者への生活支援、地域環境保全や再生可能エネルギーの普及、地域での障害者雇用創出などの社会問題の解決につながる活動にも力を注いでいます。そして、県連活動の指針として、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の諸課題に対応した取り組みを推進しています。今年2023年は、たすけあい協同の心を大切にして、「誰一人も取り残さない」安心してらせる地域づくりをすすめる課題としてこれらの活動を強化していきたいと考えます。

また、農業協同組合、森林組合、労働者協同組合など協同組合同士の交流連携を基礎にして県行政並びに市町村の生活担当分野の皆様、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各分野の団体の皆様とのさらなる連帯強化を模索しながら、SDGsの諸課題に取り組んでまいります。

今年の干支は癸卯(みずのとう)です。協同組合原則に則ってアイデンティティを大切にし、チャレンジ精神をもって地域共生社会づくりを前進させる年にしましょう。協同組合の活動を奈良県隅々まで広げて参りましょう。



新年のご挨拶

奈良県生活協同組合連合会並びに
会員生協の皆さまに、
令和5年の初春のお慶びを申し上げます。

奈良県知事 荒井 正吾



昨年までの3年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、県民生活の苦しい時期が続いてきました。まだ一部に困難が残っていますが、今年はコロナ禍を乗り越えて、健全な日常生活を取り戻し、奈良県がさらに発展することを改めて願いたいと思います。

奈良県が大きく変わってきています。

これまで奈良県は大阪のベッドタウンとして発展してきました。奈良県に住宅がある大阪通勤者が増えた結果、奈良県の人口が大きく増加しました。その結果、県外就業率が全国1位の時代があったのですが、この25年間に県外就業が減り、県内就業が増えた結果、県外就業率は33%から27%に減少し順位も全国3位となって、脱ベッドタウン化が進んできました。奈良県に住まわれるようになった次の世代の就職先が県内で多く見つけられるようになると、親の世代が県内で独りぼっちにならなくて済み、住んで良し、働いて良しの奈良県が実現することになります。

脱ベッドタウン（県内就業率の低下）のきっかけとなる県内雇用の増加は、県内工場立地件数の増加（近畿2位、全国9位）、県内有効求人倍率（近畿1位）などの先行指標で表されています。

奈良県発展の大きな動きが眼前に

奈良の未来の発展に寄与する大きな動きが眼前に現れてきました。そのひとつが、リニア中央新幹線の「奈良市附近駅」の設置に向けた動きです。駅の位置、ルートを確認し、工事を着工するには環境影響評価を必ずしなければなりません。

んが、それを2023年、つまり今年に行うべしということ为国が公式に明言したのです。岸田内閣総理大臣も、私と三重県知事と呼んで、両知事は、駅・ルートの確定に特段の働きをするようにと、指示・激励を受けました。このようなことは、これまで一度もありませんでした。

リニア中央新幹線の「奈良市附近駅」を確実にするのに、今年はとても重要な年になってきています。

リニアと密接に関係するプロジェクトが、五條市に建設予定の2千メートル級滑走路を有する大規模広域防災拠点です。先日事業開始式を行うことができましたが、国から事業費の7割が交付税として措置される制度を適用でき、谷を埋める盛土材はリニア中央新幹線工事での発生土を活用し、鉄道による輸送も検討しています。

また、リニアの「奈良市附近駅」と五條市の大規模広域防災拠点の間であって、京奈和自動車道が走る大和平野中央部（磯城郡3町）に、（仮称）「奈良県立工科大学」とスタートアップヴィレッジ、サッカーをはじめとする球技専用スタジアムを核としたウェルネスタウン、スポーツと食と農が融合するウェルネスタウンをテーマとする拠点整備など、大和平野中央田園都市建設も楽しみです。

貴連合会並びに会員生協の皆さまが、ご健勝にお過ごしになり、奈良県が大きく飛躍する今年になりますよう、心からお祈り申し上げます。



2022年度

第2回 生協・行政協議会を開催

11月17日、ならコープ本部会議室において2022年度第2回生協・行政協議会を開催しました。

奈良県文化・教育・くらし創造部消費・生活安全課から中森功征課長、吉田真理子係長、澤田真樹主事に出席いただき奈良県生協連理事・監事と意見交換を行いました。

奈良県生協連は10月に「2023年度奈良県行政に向けての要望書」を提出しており、はじめに要望項目への回答について説明がありました。要望は食の安心・安全の施策や安心してらせる地域づくりなど多岐にわたるものですが、現在実施している施策や今後の方向性などについて県の各担当部署から丁寧に回答をいただきました。とくに安心してらせる地域づくり、県民の健康を守るための施策などについて意見交換しました。



奈良県生協連「2023年度 奈良県行政に向けての要望書」のポイント

1. 食料自給率の向上について

- (1) 奈良県の食料自給率(カロリーベース)13%の向上に向けた施策
- (2) 農林水産省「みどりの食料戦略」における有機農業の推進、農業負担増への対応



2. 安心してらせる地域づくりの施策について

- (1) こども家庭総合支援と体制の充実
- (2) 困窮している学生への支援～学生生活や教育を受ける環境格差への支援と配慮



3. 県民の医療と健康を守るための施策について

- (1) 新型コロナウイルス感染者への対応の充実
- (2) PCR検査陽性者で自宅療養者が急変した場合の対応(医師と保健所との連携)
- (3) 各市町村の特定検診やがん検診の受診率向上、推進に集中できる体制づくりの支援
- (4) 地域医療の推進に向けた地域包括ケアシステムと在宅医療の充実



4. 消費者行政の推進について

- (1) 消費者被害の未然防止と拡大防止に向けた特定非営利活動法人なら消費者ねっととの連携
- (2) 奈良県見守りネットワークによる高齢者や障がい者のくらしの不安解決
- (3) 成年年齢引き下げに伴う若者被害の防止、被害情報の発信と相談しやすい体制づくり

5. 労働者協同組合法施行に伴う支援について

労働者協同組合法の理解と浸透に向けた県行政の施策の推進

6. なら健康省エネ住宅の推進について

奈良県民の生命と健康を守るための県民運動の推進支援、奈良県産材を活用した健康省エネ住宅の普及による林業の活性化と健康寿命につながる支援

ピースアクションinなら2022 — 川崎 哲さん講演会 —

『向こう側』の視点から

昨年、核兵器禁止条約第1回締約国会議と核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議が開催されました。唯一の戦争被爆国でありながら米国の核の傘の下にいる日本はこれからどうしていくべきなのか? ピースボート共同代表でICAN国際運営委員の川崎哲さんにお話ししていただきました。



以下講演の概要です。2022年10月22日開催 77名参加

講演のタイトルで『向こう側』の視点から』という面白いタイトルをご提案いただきました。今の日本にいるだけではわからない、世界で何がおきているのか、世界から日本はどう見えているのかということ、核兵器や平和の問題について考えるということはとても大事なことです。

ウクライナでおきているロシアの核の脅しについてNPT再検討会議でウクライナの18歳の女性は『核兵器を使うぞ』という脅しで多くの命が犠牲になっており、核の使用はもちろん威嚇も許されないと発言しました。NPT再検討会議では1995年と2000年「核兵器廃絶を達成する」という合意ができました。2010年には「核兵器禁止条約に留意する」ということを確認しました。その後世界の核兵器の数は減ってきていますが、まだおよそ13000発あります。2020年には世界の終末時計は1分40秒まで進みました。2010年ころから「核兵器の非人道性」がキーワードとなり2017年に核兵器禁止条約ができました。核兵器禁止条約は、「核兵器を非人道的兵器として」「全面的かつ完全に禁止し」「核兵器廃絶への道筋を定め」「核被害者への援助」を定めています。

核兵器禁止条約に対する3つの批判について、「NPTと矛盾する」のではなく核兵器廃絶に至ると同じ目標に向かった条約で相互に補完するものです。「安全保障を踏まえてない」のではなく、広島や長崎でおきたことは受け入れられない。核兵器のない安全保障こそが人類の命を守ります。「実効性がない」のではなく、この間対人地雷など大量破壊兵器は禁止され、世界の金融機関の対応でこれらの非人道的兵器は製造されなくなってきました。対人地雷条約にはアメリカは入っていない。抑止論については、NPT再検討会議前に開かれた「核兵器の非人道性に関する国際会議」の議長のまとめで、次のように批判しています。①ロシアによる核の威嚇は、抑止論に基づく安全保障の脆弱性を示している。核兵器は戦争を防ぐどころか、核武装国による戦争の開始を後押ししている。②新しい技術(AIやサイバー)の発展は、抑止力が核戦争を防ぐという理論に疑問を投げかけています。③核抑止に基づく安全保障は持続可能ではない。④核兵器の非人道的影響やそのリスクに鑑みて、核兵器の有用性やリスクの真実性を、事実に基づき再検討するべきである。

そして、世界で非核地帯が広がっていること、日本では核兵器禁止条約に7割以上の人が参加すべきだとの世論など、核兵器のない世界をめざす運動は広がっています。更に第1回締約国会議で決定され次の会議に向けすでに核兵器禁止から廃絶のプロセスはもうスタートしています。

最後に、核兵器抑止力について参加者に次の4つの視点で考えてほしいと話されました。①道徳性:それは正しいことなのか? ②実効性:機能するのか? 失敗しないのか? ③伝染性:「我も我も」にならないか? ④結果責任:破綻したらどうするのか?

○ウクライナにおける核の威嚇の意味、核兵器廃絶に向け世界で進められていること、核兵器禁止条約がどう機能していくのかなどを知ることができました。

* 参加者の感想

○2050回以上の核実験は驚きです。

○核抑止論の疑問を分かりやすく解説していただき理論整理ができて良かったです。世界の核兵器禁止条約や締約国会議の情報があまり報道されておらず、知らない情報が提供されよかったです。

○今の日本にはあきらめしかないと思っていたが、私たちが行動することで、変えていける、まず行動しないといけないと思いました。事実を知り、そして伝えることから始めたいと思います。



憲法学習会



11月26日ならコープ本部会議室で伊藤真弁護士（法学館憲法研究所所長）を講師に「憲法改定問題を考える～なぜ変えるの？どこを変えるの？私たちの生活はどうなるの？」をテーマに憲法学習会を開催しました。



ならコープ、ならコープ労働組合、奈良県医療福祉生活協同組合、ならコープボランティアグループ平和の会、奈良県生活協同組合連合会の5団体が共催し、90名（会場68名、オンライン22名）が参加しました。

2022年度憲法改正世論調査では各調査で若干の差はありますが憲法改正、憲法第9条改正の賛成が過半数を占めています。同時にウクライナ戦争の影響で防衛費増大、反撃能力の保有なども賛成が過半数を占めてきています。このような情勢の中であらためて憲法の重要性、戦争や平和との関係性、私たちは今後どのように考え行動すべきかを考える機会になりました。

<主な講演内容>

2012年の自民党の改憲草案では、国防軍を創設し、個人よりも国家を優先しています。新たに国民に10の義務（国防義務、家族助け合い義務、緊急事態指示服従義務、憲法尊重擁護義務…）を課そうとしています。憲法が国民を支配する道具に変質してしまいます。さらには、第9条に自衛隊を明記、緊急事態条項創設（コロナ禍で強調され、内閣が自由に人権侵害できる政令制定が可能になる）、一人一票の否定、教育内容への国家の介入を容易（国の未来のためのものと規定）にしています。特に第9条の自衛隊の明記によって「必要な自衛の措置」が拡大解釈される可能性があり、「国防」が憲法上、新たな「人権制約の根拠」になり徴兵制も合憲となりうるようになります。「国防」の名目で自由が抑圧される国家になる可能性があります。

憲法を理解するうえで重要なことは想像力（イマジネーション）であり、他者への共感です。学生たちにはいつも新聞・TV等を見るときには想像力で視野を広げるように言っています。世界地図を逆にすると、日本が朝鮮半島を覆いかぶさるように見え、アジア諸国から見てずいぶん違った印象に目えてきます。国民投票や選挙の時も想像力が重要で、ネット情報はフェイクの可能性を常に意識し、多様な情報に触れることが不可欠です。

憲法改正国民投票法（第96条憲法改正）の問題点は以下です。

①最低投票率・絶対投票率の定めがないこと、②投票運動の期間が短期間でないこと、③投票日15日前までのテレビCM規制がないこと、④投票日14日前を過ぎてても勧誘行為以外のCMが可能であること、⑤運動の広告資金・事前運動・ネットも規制がないため資金力の多寡による不公平があること、⑥複数同時発議でもよいと国民にとって十分な熟慮期間がないことなど他国と比較して規制が少なくなっています。しっかり情報を入手して熟考する必要があります。

最後に伊藤弁護士から以下の提起がありました。

①今、私たちに必要なこととは、日本をどんな国にしたいのか、私たち自身が覚悟を決め自分たちで創り上げることです。家庭、職場、学校、地域などで話題にし続け、戦争の悲惨さや改憲について自分の生活がどう変わるかなど想像力を持って歴史から学ぶことが必要です。②自立した市民として賢く生きるために学び続けましょう。自らの意思で学び、考え、行動し、社会にかかわる。自らの意見を言える市民でいましょう。③今を変えれば未来を変えられる。憲法の理想に現実を近づけること、市民として主体的に行動しましょう。

参加者アンケートから（抜粋）

・戦後77年、やっと社会が憲法に追いつき始めたという言葉が印象的でした。しかしながら権力者の暴走により、日本があやうい状態になっていることがよくわかり、市民がしっかり学び考え行動することが大切であることがよくわかりました。コロナを見ても同じ時間を生きているのに人によってとらえ方は様々です。多様な情報、多様な考えに触れ、想像力をもって平和を守っていききたいと思いました。

・知らないことがばかりでした。9条をかえてはいけないことがよくわかりました。5兆円を軍事費以外に使ってほしいです。原発が攻撃されたら…と考えるだけでもおそろしいです。国民投票は問題点ばかりで改正が必要だと感じました。

・憲法の力はすごい！が残念ながら生かされていない。権力者が群衆を動かし、その群衆により権力者も動かされる。このような状態にならないように、多様な情報、知識を得て、共感力、想像力を働かせ、社会に関われるようになろう。

おじゃましました // ならコープの巻

フードバンク奈良と子どもの未来 アクションアンバサダーとの交流会

ならコープでは「子どもの未来アクションアンバサダー」(組合員)が2019年から子どもの貧困問題を何とかしたいと活動を始め、毎月15日のフードドライブや学習会などをされてこられました。一方で、ならコープが活動場所や食品の無償提供で活動支援しているフードバンク奈良では、アンバサダーのフードドライブ活動で集められた食品の提供を受け、必要とされている団体やこども食堂などに食品を届ける活動をしています。

「もったいないをありがとうに」の活動をしている双方が、それぞれの活動で感じていることや今後取り組んでみたいことなどを交流し、今後の活動につなげようと11月8日と10日の2回交流会を開催され、8日コープいまご集会室の交流会に取材に行ってきました。

ならコープ職員の工藤利香さんから「子どもの未来アクション」の活動紹介、その後フードバンク奈良理事の矢藤加寿子さんから活動紹介



2つのグループに分かれて交流



11月8日交流会内容とスケジュール (コープいまご集会室)

- 10:00 あいさつ 板澤英子ならコープ常任理事
- 10:05 ならコープ子どもの未来アクション活動紹介
- 10:20 フードバンク奈良 参加者紹介
- 10:25 交流(始めたきっかけ、やりがい、課題、感じていることなど)
- 11:15 グループ報告
- 11:30 終了



第1回目は、子どもの未来アクションアンバサダー6名、フードバンク奈良4名と関係者(事務局、取材)4名の合計14名が参加。この交流会はならコープとフードバンク奈良が毎月1回開催している定例会で提案されたものです。

アンバサダーの皆さんは、子どもの貧困のことを学習会で知っていても具体的にはわかりません。自分たちが集めた食品がフードバンク奈良に提供されているところまでしかわかりません。フードバンク奈良のボランティアはどんな団体に渡しているのか、受け取りに来られた方から様子や要望は聞いています。双方ともみな「子どもの貧困に対して何とかしたい」という思いから活動に関わったことは同じです。「熱い思いが伝わった」「多くの人に知ってもらうことが大切」「はじめは懐疑的だったが喜んでくれる姿にこの活動はやるべきだと思った」「交流会をしてよかった」との感想が出されていました。今後ともお互いが連携して活動ができるといいですね。

おじゃましました // 奈良教育大学生協の巻



自転車点検活動

11月10日奈良教育大学生協で「自転車点検」を学生委員会が開催するとお聞きし、取材に行ってきました。午後から生協食堂前の広場(アゴラ)に何と自転車の何重もの列。たくさんの自転車が点検を待っていました。

毎年大学生協で実施してきましたが、コロナ禍で一時中止した年もありました。春に実施し、今回は今年度2回目の開催。11日も実施するそうです。

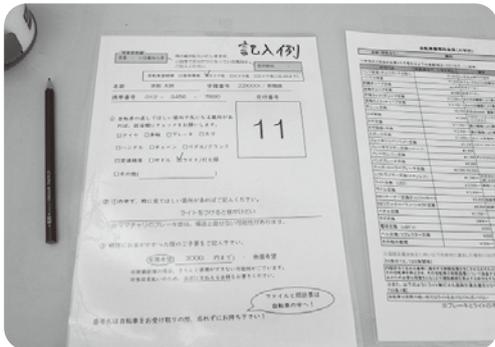


生協学生委員会共済局・局長補佐の大越直宜(なおいき)さん(2回生)(左)と受付にいらした堀澤歩佳さん(1回生)(右)にお聞きしました。



点検を待つ自転車

1コマ9時から14時まで受付しています。毎回80台上限の自転車が集まります。事前予約はSNSや学内メールでお知らせしGoogleフォームで受け付けます。基本は事前予約、予約がなかった分のみ当日対応します。共済局が主催し、共済の加入を促す目的もありますが、事故が起これないように日ごろの意識を高めることも目的です。見てもらいたいところや受け取り時間を用紙に書いてもらいます。自分の自転車を知ることにもなります。業者さんによる点検は無償ですが、故障などの場合は、有償で修理や交換をしてくれます。出張修理業者「大仏サイクル」の永瀬勝さんもあたたかく学生さんの活動を長年見守って来られた方でした。



受付表に見てほしい箇所を記入



「大仏サイクル」の永瀬勝さん



錆びたチェーンを交換

現在、生協学生委員は1回生45人、2回生44人合計89人。2020年春はコロナで新入生歓迎会もできませんでしたが、今は多くの学生さんが活動をしていました。入試の時に「キットカット」を配って応援してくれたことがきっかけで生協学生委員になったという堀澤さん。チョコレートのアンケートなどを取って利用を呼び掛けるなど楽しく活動している様子もお聞きしました。4700円の修理代を払った学生さんは、出費だけど安心できるので毎年利用しているとのことでした。



教職員の方も利用。ママチャリがありました

関西消費者団体連絡懇談会との 定期懇談会

関西消費者団体連絡懇談会は、全大阪消団連が世話人代表となり、コンシューマーズ京都、安全食品連絡会、滋賀県生協連、奈良県生協連の5団体で構成されています。毎年大阪ガス、関西電力との懇談会を重ねてきました。懇談会の歴史は古く、電気料金の値上げ問題に対しても公聴会などで消費者として意見表明してきました。

大阪ガス

11月11日、淀屋橋にある大阪ガス本社南館8階ガスビル食堂会議室で、懇談会が開催されました。Daigasグループからは、大阪ガスマーケティング(株)の植田代表取締役社長ほか11名、関西消費者団体連絡懇談会からは近畿圏の生協連や消費者団体など11名が出席しました。奈良県生協連から2名が出席しました。春から夏にかけて検討を重ねた質問書を提出し、9月に回答をいただき、さらに追加質問をして懇談会に望みました。初めにDaigasグループから「エネルギー安全保障(原料調達)に関わる大ガスの状況・取組」について説明があり再エネ導入目標や温室効果ガス排出量などについて質疑応答が行われました。契約トラブルに関するお客様の声や、出資する予定の大阪IRについての意見が出され、誠実にご回答いただきました。



写真提供：全大阪消費者団体連絡会

関西電力 電気事業経営問題懇談会



写真提供：全大阪消費者団体連絡会

11月16日、中之島にある関電会館5号会議室で関西電力との電気事業経営問題懇談会が開催されました。関西電力からソリューション本部山下副本部長はじめ原子力事業やエネルギー・環境企画室、ソリューション本部経営企画室、コンプライアンス推進室、土木建築室、エネルギー需給本部など各担当の方11名が出席されました。関西消費者団体連絡懇談会から11名が出席し、奈良県生協連からは2名が出席しました。通常の手紙を受け取った上で、さらに質問を絞って意見交換しました。1つは高浜町での金品授受問題から派生したコンプライアンス問題と信頼回復につ

いて、2つ目はエネルギー安全保障・燃料調達と今後の電源構成・電気料金について、3つ目は原発について。エネルギー政策は国の政策であり、消費者である懇談会メンバーとはいつもながら平行線のままでしたが、誠実に回答をしていただけました。お客様サービスセンターを通じた声だけでなく、今後も消費者の声を聞く場である懇談会を継続していただきたいと要望を伝えました。

大阪消団連 50周年 感謝のつどい 「記念シンポジウム 21世紀の消費者運動～課題と未来～」

12月3日 シティプラザ大阪(大阪市中央区)で全大阪消費者団体連絡会(大阪消団連)50周年感謝のつどいと記念シンポジウムが開催され、奈良県生協連として出席しました。

第1部では来賓(大阪府消費生活センター所長、全国消費者団体連絡会事務局長、元全農林労働組合大阪府協議会議長)のご挨拶があり、第2部の記念シンポジウム「21世紀の消費者運動～課題と未来～」では、大阪消団連「21世紀に向けた消費者運動の課題」のアップデートが行われた報告があり、6人のパネリストから発言がありました。

大阪消団連「21世紀に向けた消費者運動の課題」のアップデート報告

1981年に策定され1992年再確認された「21世紀に向けた消費者運動の課題」の改訂案策定作業(アップデート)を会内プロジェクトですすめてこられました。その中間報告として「2050年を展望し、『危機』をのりこえる消費者運動を」を取りまとめることができたと報告がありました。

1981年に確認された消費者運動の課題【貧困、地球レベルの環境汚染、人間生存の基本条件(水・大気・土壌など)の汚染、がんや先天異常の急増、消費者被害の発生】は、今も解決できていない課題であり、その後のグローバル化の進行、貧困と格差拡大、気候変動や食糧危機の深刻化、紛争や核兵器使用の懸念、さらに新たな病原菌・疾病、デジタル化に伴う消費者被害の拡大など、更なる対応が求められています。巨大自然災害被害の緩和、公正で誰も取り残されない社会、ジェンダー平等の社会をめざすと、2050年の展望については果敢に取り組んでいく力強さを感じる報告でした。

消費者運動はこれからますます取り組んでいかなければならないことばかりです。「動けば変わる。勝ちぐせを」とのパ

ネリストの方の言葉は、そのとおりだと思います。今後も、関西および全国や海外の消費者団体や、専門家との連携と協力が不可欠だと改めて思いました。



感謝のつどい会場ようす
写真提供：全大阪消費者団体連絡会



感謝のつどい会場ようす
写真提供：全大阪消費者団体連絡会

◆パネリストのみなさん◆

原強氏(コンシューマーズ京都)
国府泰道氏(弁護士)
河原翔太氏(近畿大学生協学生会委員会)
タンミッシェル氏(消費者ネットジャパン)
小林誠道氏(Fridays For Future Osaka)
武田かおり氏(AMネット)

◆奈良県生協連のかかわり◆

1990年に設立した奈良県生協連は、設立して間もなくから関西消費者団体連絡懇談会(関消懇)に加入しました。環境や食の安全、消費税反対運動、TPP反対運動、電気料金値上げ申請意見交換会、関西電力・大阪ガスとの懇談会などに参加しています。

「2050年を展望し、『危機』をのりこえる消費者運動を」要点から抜粋

大阪消団連は

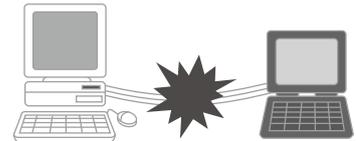
今ある危機を食い止めるストッパーとして、人間が人間らしく生き得る社会の具現者として、鮮明な役割を担うことを自覚し、危機をのりこえる消費者運動をすすめる。

ならコープで発生した重大なシステムトラブル

10月9日(日)未明にサイバー攻撃によりならコープのネットワーク接続ができなくなり、組合員の生活と日常業務に深刻な影響を及ぼすシステムトラブルにみまわれました。同じシステム環境である奈良県生協連も日常業務に支障をきたし、パソコンやメールが使用できず各方面にご心配とご迷惑をおかけしました。ならコープでは即日対策本部を立ち上げ、非常事態宣言を発令し役職員総力をあげて復旧に取り組みました。奈良県生協連も対策本部に出向き情報の収集に努めました。また森会長と専務が、県の所管部署である文化・教育・くらし創造部・消費・生活安全課に経過を報告し指導を受け、対策本部(関係者)への報告に努めました。

①初動対応

- ・システム障害のため10月9日以降電話・FAXで対応
- ・日本生協連関西地連に連絡し、日本生協連連関の情報入手方法を相談
- ・10月11日のならコープの理事・監事向けの説明会に参加し、情報収集



②県へのシステム障害の報告

- ・10月11日：消費・生活安全課への報告に同席し、今後の指導について相談
- ・10月13日：森会長、専務が荒井奈良県知事、文化・教育・くらし創造部舟木部長に、ならコープの「重大なシステム障害発生との報告とお詫び」の経過と状況を書簡で報告し指導をお願いしました。県からは「組合員への広報には限界があるため、サイバー攻撃を受けている旨をマスコミリリースし組合員へ周知するよう」指導を受けたことを対策本部へ報告しました。
- ・11月2日：消費・生活安全課を訪問、復旧現状を報告しました。
- ・11月17日：生協・行政協議会で消費・生活安全課長にならコープの「重大なシステム障害の経緯」を報告し、今後の指導をお願いしました。

③生協関連

- ・10月14日：第2回近畿地区府県連協議会で森会長からならコープのシステム障害の報告と今後の協力支援についてお願いしました。
- ・11月17日：第4回生協連理事会でならコープのシステム障害の報告と状況を共有しました。
- ・12月1日：日本生協連地連運営委員会でならコープで発生したサイバー攻撃による重大なシステム障害状況とサイバー攻撃を想定した対策・注意喚起について報告があり、共有させていただきました。

④復旧状況

- ・生協連のパソコンやメールの完全復旧にはまだ時間がかかるものと思われます。奈良県生協連ではBCPの観点からシステム構築を検討します。

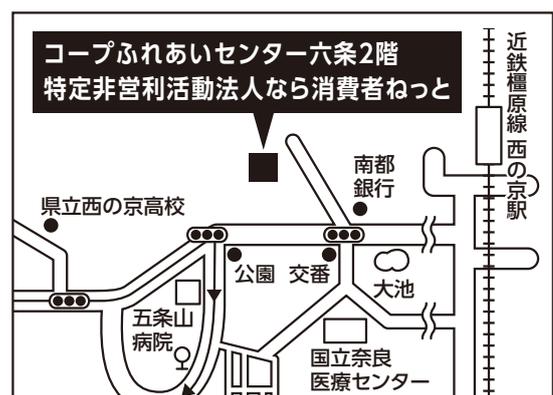
特定非営利活動法人なら消費者ねっと事務所を移転

特定非営利活動法人なら消費者ねっとは適格消費者団体をめざす準備をすすめておられ、そこで基盤確立という目的から11月1日事務所を移転されました。

奈良県生協連は、今後も活動がさらに活発化されるように支援・協力させていただきます。

新事務所 特定非営利活動法人なら消費者ねっと

〒630-8043 奈良市六条2丁目17-6-11
 コープふれあいセンター六条2階
 Email: info@narasn.org
 URL: http://www.narasn.org
 TEL/FAX: 0742-93-7741 (平日10:30~15:30)



10月

- 7日(金) 関西消費者団体連絡懇談会
- 8日(土) 第4回協同組合の地域共生フォーラム(主催JCA)
- 13日(木) 近畿地区LPガス懇談会
- 14日(金) 第2回近畿地区生協府県連協議会
- 14日(金) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会を訪問
- 19日(水) 若者応援プロジェクト奈良(奈良女子大学フードパントリー)
- 20日(木) 関西広域連合応援訓練
- 22日(土) ピースアクションinなら2022(川崎哲氏講演)
- 25日(火) 奈良県食と農の振興会議
- 25日(火) なら消費者ねっと理事会

- 27日(木) 奈良県教育委員会訪問
- 29日(土) 関西ブロック労働者協同組合フォーラム(主催厚生労働省)

11月

- 7日(月) 奈良県労働者福祉協議会との懇談
- 7日(月) 第12回奈良子ども食堂ネットワーク世話役団体会議
- 9日(水) ピースアクションをすすめる会
- 10日(木) 上半期監事監査
- 11日(金) 関西消費者団体連絡懇談会(大阪ガス)
- 15日(火) 奈良防災プラットフォーム連絡会
- 16日(水) 関西消費者団体連絡懇談会(関西電力)
- 17日(木) 第2回生協・行政協議会

- 17日(木) 第4回奈良県生協連理事会
- 22日(火) なら消費者ねっと理事会
- 26日(土) 憲法学習会(伊藤真氏講演)

12月

- 1日(木) 日本生協連地連運営委員会県連活動推進会議
- 3日(土) 全大阪消費者団体連絡会50周年感謝のつどい・記念シンポジウム
- 12日(月) 近畿農政局との意見交換会
- 13日(火) 奈良県社会福祉協議会ラウンドテーブルミーティング
- 16日(金) 若者応援プロジェクト奈良(永井学園フードパントリー)
- 20日(火) なら消費者ねっと理事会
- 21日(水) 大阪地区消費者対話集会(日本化学工業協会)

お知らせ

第32回奈良県生協大会

地域で安心して暮らし続けるために
～コミュニティナースの活動に学び、地域を元気に!～



開催日時：2023年3月4日(土) 13:30～16:30(開場13:00)

開催場所：奈良ロイヤルホテル 2階鳳凰の間(〒630-8001奈良市法華寺町254-1)

第一部：講演：矢田明子氏(コミュニティナースカンパニー代表取締役)

第二部：クロストーク：矢田明子氏、県移住・雇用創造係、梅本久美子氏(コミュニティナース)

申し込み：奈良県生協連 0742-34-3535

編集後記

この間の大規模なシステム障害により、パソコンやメールが長期間使用できない状態が続きました。何から何まで手作業で紙の資料を基に再度打ち直す作業に追われました。BCPの観点からも万々に備え、データの整理(紙ベースと電子化)が必要で「喉元過ぎれば何とやら」にならないようにしたいものです。(弘)

「福島の子ども保養プロジェクトで奈良の大仏を見学した時に『それまでは何を触るのも抵抗があったが、スタッフの優しい声掛けで触ることができた。触ってもいいんだと思えた』そのことが一番心に残っている」コヨット!感謝のつどいで高校生の発言があったときいた。彼女がコヨットで両親と奈良を訪れたのは小学校1年生の時だった。(和)

冬眠場所を探していたのか12月になって浴室に現れた尾の曲がった奇形のヤモリ。かなり衰弱していたが、どうしてやることもできず見守るしかなかった。3日間逃げることもせず、ある日窓辺で冷たくなっていた。小さなヤモリの死がこれほど喪失感をもたらすとは。(順)

今年「癸兔」の年だそうで、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられています。ここ数年は暗いニュースばかりでしたが、今年こそ希望あふれる一年になって欲しいと願っています。(佳)